

特設第二七機関砲隊（尙第一七四六四部隊）	
年 月 日	略 歴
昭和一九五五 五二〇	特設第二七機関砲隊編成下令 編成完結（市川市）
五二四	屯管出発
五二七	佐世保港出帆
	高雄、マニラ寄港
六二二	ミンダナオ島ダバオ上陸
同日	海軍第三二根拠地隊に配属 爾後ダバオ飛行場並に同地警備 以降対空戦闘に参加
九一	米軍コダバトに上陸タバオ地区に侵入之と交戦
二〇	後方拠点に後退戦闘を持続す
六一〇	
八一五	停戦
九二	終戦
	（注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

年 月 日	略 歴
昭和一九五	特設第二八機関砲隊編成下令
五二〇	編成完結（市川市）
五二七	佐世保港出帆
六二三	ミンダナオ島ダバオ上陸
同日	海軍第三二根拠地隊に配属
二〇四	爾後ダバオ海軍飛行場附近の防空警備
四二九	米軍ダバオに進撃之れと交戦人員約五割の損害を被り後方タバオ州アサン地区に転進
八一五	爾後山間部に陣地を構築し夜間斬込隊を編成遊撃戦斗に移行す
八二五	停戦
九二二	終戦
	（注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

特設第二九機関砲隊（尙第一七六四八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 五 五 二〇	特設第二九機関砲隊編成下令 編成完結（市川市）
五 二七	佐世保港出帆
六 二三	ミンダナオ島ダバオ上陸
同 日	海軍第三二根拠地隊に配属 海軍飛行場の警備
二〇 四 二八	米軍ダバオ地区に進撃之れと交戦
六 一四	以降山間部に陣地を構築し遊撃戦斗に移行す
八 一五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

特設第三〇機関砲隊（尙第一七六四九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 五 五	特設第三〇機関砲隊編成下令 編成完結（市川市）
五 二七	佐世保港出帆
六 一〇	マニラ寄港
六 二三	ミンダナオ島ダバオ上陸
同 日	海軍第三二根拠地隊に配属
九 一〇	対空戦斗に入る
二〇 四 二八	米軍ダバオ市に侵入之と交戦
七 一	カリヤワ北方十杵の山中に入り自活自戦の態勢に移行す
八 一五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

特設第六五機関砲隊（尙第二一九五部隊）

昭和一九	年月日	略歴
九	九二八	特設第六五機関砲隊編成下令 編成完結（市川市）
九	九二九	屯営出発 編成人員 隊長 中尉 大平和雄 以下八五名
一〇	一〇三三	宇品港出帆
一〇	一〇二六	ルソン島マニラ入港
一〇	一〇三〇	マニラ港出帆
一一	一一一	レイテ島オルモック上陸 爾後同地附近の警備
一一	一一七	米軍オルモックに上陸之れと交戦遂に陣地の守備困難となり中央山岳地帯に転進
一一	一一三〇	米軍有力部隊と遭遇激戦を展開す
一一	一一四	部隊の集結は困難となり以後分散カンギボット山附近に於て持久戦に入る
一一	一一五	停戦
一一	一一二	終戦
一一	一一九	（注）終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

第三移動兵器修理隊（尙武第一二二三六六部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 一 八	第三移動兵器修理隊編成完結（津田沼）
八 二	門司港出帆
九 下 旬	ルソン島マニラ上陸
一 一 一 八	爾後マニラに駐留兵器修理業務に従事
一 四 一	川本隊（川本中尉以下六八名）を第三五軍（レイテ島）に転属せしむ
一 五 四	バギオ郊外トリンダットに駐留
一 八 上 旬	バギオ・ポンドツク道上九〇軒附近に駐留
八 一 五	より終戦時迄山岳州トツカンに駐留
八 一 五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

第三〇野戦防疫給水部（尙武第一二三八八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 一五	第三〇野戦防疫給水部編成完結（千葉市）
八 一四	門司港出帆
九 二二	ルソン島ラオアグ上陸
一〇 一〇	本部はマニラに於て防疫給水業務を開始一部はリンガ湾サンフェルナンドに於て業務を開始す
至自 二〇〇〇 八一 一四九	第二次捷号作戦参加
二〇 八 一五	部隊本部をルソン島山岳州バギオ、トツカン、テノツクに、支部をヌエバピカヤ州バンバン及びマニラ東方基地内に置く
九 二二	停戦 終戦  （注）終戦後米軍の收容所に入り爾後各個に復員する

第一〇二師団砲兵隊（抜第一〇六九六部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 一九 七 一 〇	第一〇二師団砲兵隊編成完結（セブ島）
一九 九 一 一 上旬	パナイ島、イロイロに転進同地北方地区の警備に任ず 主力はレイテ島オルモックに転進しピナ山正面に於て防禦戦斗に任ず
一一 二	西海岸に転進途中リホンガオ西方地区に於て米軍と遭遇激戦の後部隊は大多数の戦死者を生ず、転進完了後生存者は金田支隊に編入せられカンギボット山周辺地区の戦斗に参加す
二〇 三	以降軍主力と共に連絡杜絶す
八 一 五	停戦
九 二	終戦
（注）生存者は終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する	



第一〇二師団工兵隊（抜第一〇六九七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九七	第一〇二師団工兵隊編成下令
一九七〇	編成完結（セブ島）
一九八	ネグロス島に転進バコロド地区飛行場の設定に任ず
一九一二	本部、第二中隊、第八中隊はレイテ島パロンボンに転進同地の警備並に道路構築に任ず
二〇一	金田支隊に編入せられカンギポット山附近の陣地を占領米軍と交戦す
	第三中隊は軍直轄としてセブの築城に任じありしが米軍レイテ島上陸と共にレイテ島オルモックに転進カリガン、ピナ山附近の架橋道路構築に任じ十二月末西海岸に転進工兵隊主力と行動を共にす
	第五中隊は編成後バナイ島イロイロの警備及び築城に任じありしが米軍レイテ島上陸と共にレイテ島パロンボンに転進し工兵隊主力と行動を共にす
二〇三	ネイグロス島残留部隊はシライ東方ナガ山岳地帯に移駐陣地構築に任ず
二〇六	米軍ネグロス島に上陸之れと交戦
二〇六	フアブリカ南方山麓地帯に転進自活自戦の態勢に移行す

八  
一  
五  
九  
二

停  
戦  
終  
戦

(注) 終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

第一〇二師団輜重隊（抜第一〇六九八部隊）

年 月 日	略 歴
<p>昭和一九 七 一〇 九 上旬 一 一 八 一五 九 二</p>	<p>第一〇二師団輜重隊編成完結（セブ島）            ネグロス島に移動しバコロド地区飛行場の設定作業に従事            米軍レイテ島上陸により本部の一部及集成一中隊をレイテ島パロンボンに派遣す            該部隊はパロンボン附近の警備に任したる後一月金田支隊に編入せらる            ネグロス島に在りし主力は米軍上陸後シライ山麓の陣地に入り之れと交戦            爾後七七旅団司令部と行動を共にす            停戦            終戦            （注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員す</p>

<p>第一〇二師団防疫給水部（抜第一二四二四部隊）</p>	<p>年 月 日</p>	<p>昭和一九 七 一〇 九</p> <p>自 二〇 〇九</p> <p>至 二〇 〇九</p> <p>一 二 〇</p> <p>一 二 〇</p> <p>八 一 一 五</p> <p>九 二</p> <p>下 旬</p>
<p>略 歴</p>	<p>第一〇二師団防疫給水部編成完結（熊本）</p> <p>内地出発</p> <p>ルソン島上陸</p> <p>レイテ島西海岸に転進</p> <p>レイテ島に於ける捷一号作戦準備並に捷一号作戦に参加</p> <p>停戦</p> <p>終戦</p>	<p>（注）少数の生存者は米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する</p>

第一〇二師団野戦病院（抜第一二四二二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 一 二	第一〇二師団野戦病院編成完結（和歌山）
九 二	大阪港出帆
九 三 〇	北サンフェルナンドポロ港上陸
一 一 一 三	マニラ着
二 〇 一 二	爾後状況悪化のため本師団（レイテ参戦）に追及し得ず軍命令に依りマニラ防衛部隊の傘下に入りマニラ水源地イボ方面に病院開設の準備に入る
五 上 旬	イボ附近アングット河流域に沿い病院を開設川島兵団の指揮下に直屬す
八 一 五	各部隊の患者を收容しありしが砲撃漸く熾烈となりたるため以後大部を更に奥地に移動す
九 二	停戦 終戦  （注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

<p>昭和一七〇</p> <p>年月日</p>	<p>至自至自至自</p> <p>七三〇一 九四三〇 九五六七 九七九七 九八〇七 一九〇〇 一九〇二 一九〇二 一九〇二 一九〇二</p>
<p>略歴</p>	<p>独立歩兵第一六九大隊編成完結（マニラ）</p> <p>編成 本部、第一、二、三、四中隊、銃砲隊、作業隊、各中隊は約百名にして四ヶ小隊に分つ</p> <p>レイテサマル島の警備並に討伐に任ず</p> <p>バナイ島討伐</p> <p>ポホール島討伐並に警備</p> <p>編成改正</p> <p>レイテ島オルモックに転進カリガラ南方トウング附近に於て米軍と交戦</p> <p>ピナ山附近の戦斗に参加</p> <p>西海岸ビリヤバ附近に転進し同地附近の戦斗参加 二〇年三月以降連絡杜絶</p> <p>大隊の一部（約二五名）は司令部警戒隊としてセブに転進しセブ島の戦斗に参加</p> <p>終戦</p> <p>（注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する</p>

独立歩兵第一七〇大隊（抜第一〇六三二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 一 七 一〇	独立歩兵第一七〇大隊編成完結（セブ島） 編成改正
一九 一〇	爾後バナイ島イロイロ州及アンチケ州の警備
二〇 三 一八	第一〇二師団司令部の主力レイテ島に転進後はバナイ全島の防衛に任ず 米軍バナイ島に上陸するに及び三月一八、一九、二十日の間イロイロ市附近に於て 之を迎撃 爾後持久戦を企図、イロイロ市西方山地（ボカリ）に転進し同地に拠点を設け現地 自活をなすと共に空陸より数次に亘る攻撃を受けたるも之れを撃退停戦迄同地を確 保す
九 二	終 戦  （注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 一〇	<p>独立歩兵第一七一大隊編成完結（セブ島） 爾後バナイ島北部（キヤピス）の警備</p> <p>一〇 二五 米軍レイテ島に上陸するに及び一〇月二九日オルモックに転進之れと善戦す</p> <p>一一 二二 ビナ山麓の陣地に移動し戦斗を継続す</p> <p>一二 下旬 レイテ島西海岸に転進金田支隊に編入せられカンギボット山周辺の戦斗に参加</p> <p>二〇 三 下旬 在レイテ島の軍主力と共に連絡杜絶全員生死不明となる</p> <p>八 一五 停 戦</p> <p>九 二 終 戦</p> <p>（注）生存者は終戦後米軍の收容所に入り爾後各個に復員する</p>



独立歩兵第一七二大隊（抜第一〇六三四部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 一〇	独立歩兵第一七二大隊編成完結（ネグロス） 爾後ネグロス島北部の警備に任ず
一一 上旬	第二中隊（石塚）の主力及び銃砲隊（井上）の一小隊をレイテ島パロンボンに派遣す、パロンボンに上陸せる部隊は同地附近の戦斗に参加後金田支隊に編入せられ、カンギボット山周辺の戦斗に参加す
二〇 三 二八	米軍ネグロス島バコロド附近に上陸 ネグロスに在りし大隊主力は之れを迎撃したる後シライ山麓の陣地を占領し激戦を展開す
二〇 七	糧秣不足に伴い密林中を東海岸に移動す
八 一五	停戦
九 二	終戦
（注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する	

年 月 日	略 歴
昭和一八 一一 八	独立歩兵第一七三大隊仮編成（熊本） 門司港出帆
一九 一一 二三	比島セブ島に上陸 独立歩兵第一七三大隊編成完結（セブ島）
二〇 七 一〇	爾後セブ島の警備に任ず
二〇 三 二六	米軍セブ島上陸により部隊は天山陣地を占領し之れと交戦す
四 下 旬	部隊はセブ島北部に転進し遊撃戦斗に移行す
八 一 五	停戦
九 二	終戦  (注) 生存者は終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する

独立歩兵第一七四大隊（抜第一〇六八九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和 一八 一 二 八	独立歩兵第一七四大隊編成完結（熊本）
一九 一 一 下 旬	門司港出帆
三 上 旬	仏印サイゴン上陸
五 上 旬	マニラ上陸
五 中 旬	セブ島上陸
七 一 〇	編成改正（セブ島）
七 二 〇	ネグロス島に移駐
二 〇 四 二 六	爾後主力（本部、一中隊、銃砲隊、作業隊）はネグロス島南半部の警備を担当しツマゲテ及バイスに位置す
八 一 五	米軍ツマゲテに上陸之れと交戦しつゝ終戦となる
九 二	三中队、四中队は大林中尉の指揮によりパラワン島の警備に任じありしが二月二十八日同島に米軍上陸し激戦を展開す 二中队はポポール島の警備に任じありしが三月一二日米軍同島に上陸之れと交戦す
	停戦 終戦
	（注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

年 月 日	略 歴
昭和一九 五 一〇	独立歩兵第三五四大隊仮編成（高崎）
五 二四	高崎出発
五 三〇	門司港出帆
六 一五	マニラ上陸
六 二一	セブ島上陸
七 一〇	独立歩兵第三五四大隊編成完結（セブ島） 爾後バナイ島に転進同島の警備に任ず
八 下旬	第二中隊ネグロス島に転進
九 下旬	主力（第一、三中欠）ネグロス島に転進飛行場の設定警備討伐に従事
一〇 下旬	第一、三中ネグロス島に転進大隊長の指揮に入る
三 二八	米軍ネグロス島上陸により部隊はシライ山麓の陣地を占領し爾後戦斗を継続す
七	東海岸に移動し終戦となる
八 一五	停戦
（注）生存者は終戦統米軍の収容所に入り二〇年一二月以降遂次復員する	

独立歩兵第三五五大隊（抜第一〇六九三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 七 一〇	独立歩兵第三五五大隊編成完結（マニラ） 爾後マニラ市の防衛に任ず
一九 一〇	第一中隊の松村小隊はレイテ島に転進、レイテ作戦に参加し一二月以降概ね独歩第一六九大隊と行動を共にす
一一 一六	本部、第一中隊、第二中隊、マニラ港出帆
一一 一九	第三中、銃砲隊及作業隊はマニラに残留、マニラ市防衛並に戦斗に参加
一一 二八	プリヤス島マラビンガルに寄港中米機の空襲を受け乗船沈没す 本部、第一中隊はマラビンガル出帆ネグロス島バコロドに上陸
二〇 三五	爾後歩兵第七七旅団長の指揮に入り飛行場の警備に任ず 米軍プリヤス島に上陸第二中隊は之れと交戦玉砕に至る
二〇 三八	米軍ネグロス島バコロド市南側に上陸せるによりバコロド市の周辺に於て反撃の後 同島北部のマンガラガン山西側の陣地に後退し戦斗を継続す
二〇 八 一五	停戦 （注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

年 月 日	略 歴
昭和一九二〇 七 一〇 三 二八 七 八 一五 九 二	<p>第七七旅団司令部編成完結（ネグロス島バコロド） 爾後同島の警備に任ず</p> <p>米軍ネグロス島上陸によりシライ山麓の陣地を占領して戦斗を継続す 東海岸に向ひ転進し終戦となる</p> <p>停 戦 終 戦</p> <p>（注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する</p>

年 月 日	略 歴
昭和一九 二〇	第七七旅団通信隊編成完結（セブ島セブ） ネグロス島に転進しバコロド市に於て旅団と大隊間の通信連絡に任ず 米軍ネグロス島に上陸によりシライ山麓の陣地に転進し米軍の砲爆線下に於て兵団司令部と隸下各部隊間の連絡確保に任ず 東海岸に向い転進し終戦となる 七 八 九
	一〇 二〇 二八 一五 二
	停戦 終戦 (注) 生存者は終戦後米軍の收容所に收容され即後各個に復員する

第七七七旅団作業隊（抜第一〇六八七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 一 五	独立混成第三一旅団司令部作業隊要員として東部第四二部隊（水戸工兵隊）に於て編成
六 一 八	水戸出発
六 二 八	門司港出帆
八 一 八	バナイ島イロイロに到着第七七七旅団の隷下に入る
同 日	第七七七旅団作業隊編成完結
八 一 一	バナイ島カバツアンの陣地構築に任ず
九 一 六	ネグロス島バコロドに移動
二〇 三 二 九	爾後同島に於ける陣地構築、飛行場の補修作業及守備に任ず バコロド東方二〇教料のマンガガン山陣地に移動を開始し四月一〇日集結 爾後同所に於て戦斗を継続し終戦となる
八 一 五	停戦
九 二	終戦 （注）生存者は終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する



第七八旅団司令部（抜第一〇六七八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九七〇 二〇三二六 四下旬 八一五 九二	<p>第七八旅団司令部編成完結（セブ島セブ） 爾後同島の確保に任ず</p> <p>米軍セブに上陸するや部隊は天山陣地を占領して之れと交戦す 北部地区に転進遊撃戦を実施しつゝ終戦となる</p> <p>停戦 終戦</p> <p>（注）生存者は終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する</p>

第七八旅団作業隊（抜第一〇六九五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 一 八	第七八旅団作業隊編成完結（水戸市）
七 二	下関港出帆
七 二 三	マニラ着
七 二 三	マニラ出発
七 二 八	セブ島上陸
二〇 三 二 六	爾後同島の警備並に道路、陣地等の構築に従事
四 一 六	米軍同島に上陸により天山陣地に転進し之れと交戦す
八 一 五	以降北部地区に転進し遊撃戦を実施する
九 二	終戦

（注）生存者は終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

第一六師団司令部（垣第六五五一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 一一二四	第一六師団司令部編成完結（京都） 大阪港出帆
一一二四	ルソン島上陸
一九 四四	マニラ攻略戦バタアン攻略戦を経てルソン島各地に駐屯す 南方総軍のルソン島進駐に伴い兵団は警備区域を変更されレイテ島に転進せしめらる
四 中旬	司令部位置をタクロバンに隷下部隊を島内要地に分散し配置し警備に任ず
九 一二	第一回空襲爾後連続的に来襲主要軍事施設の大部を爆破さる
一〇 二〇	米軍同島に上陸
同 日	兵団は戦斗司令部をダガミ山麓に推進せしめ反撃戦斗に移行す
一一 初旬	糧秣輸送隊をレイテ島横断オルモックに強行す
一二 六	兵団長以下残員ブラウエン作戦参加
二〇 三 中旬	残存者は附近山麓に入り爾後軍の企図に基き遂次カンギポット山周辺地区へ転進を開始す

	<p>六 八 九</p>
	<p>一五 二</p> <p>終 停 戦 戦</p> <p>(注) 終戦後米軍の収容所に収容され爾後各個に復員する</p>

第一六師団通信隊（垣第六五六〇部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 一〇 一六 一一 二五	第一六師団通信隊編成完結（京都） 大阪港出帆
一七 一一 二二	ルソン島タヤバス州ラモン湾上陸 マニラ到着
一 二六	オロンガホへ転進
二 三	モロン前進
四 一九	タガイタイ移動
一〇 一二	ストツチエンバーグ転進
一八 一〇	ロスバニオス移動
一九 四 一五	マニラ港出帆
六 中旬	レイテ島タクロバン上陸（無線第一小隊の内四ヶ分隊はサマール島上陸）
一〇 二一	転進開始
一〇 二四	ダガミ入る
一〇 二六	ダガミ山中に入る

一 一 五	二 〇	五	ブラウエン作戦に参加 爾後ブラウエン西南方山中に入る
八 一 五			ファトン作戦に参加
九 二			爾後山中に入り遊撃戦に移行す
			停戦
			終戦
			(注) 終戦後米軍の收容所に收容され爾後各個に復員する

独立戦車第七中隊（垣第一七六五八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 一 五	独立戦車第七中隊編成完結（津田沼）
六 二 四	内地港湾出発
七 二 五	ルソン島マニラ到着
七 下 旬	レイテ島上陸
自 一九 一 〇 〇	爾後レイテ島ブラウエン飛行場の設定作業に従事 レイテ島ドラグに転進同地附近の警備
至 一九 一 〇 一 三	米機の空襲並に艦砲射撃等に依り戦車の使用不能となる 爾後歩兵第二〇連隊に協力第一線に於て防禦戦に参加 米軍戦車の包囲攻撃を受け全員玉砕す
一九 一 〇 二 一	停戦
二 〇 八 一 五	終戦
九 二	

歩兵第九連隊（垣第六五五四部隊）

年	月	日	略	歴
昭和	一六	九		歩兵第九連隊編成完結（敦賀）
		一一	二二	大阪港出帆
		一二	二四	ルソン島ラモン湾上陸
				マニラ、バタン、コレヒドール攻略戦に参加以後中部ルソンの警備
一九	四	八		マニラに集結完了レイテ島に転進途次サマール島カタパロガン上陸該地の防衛に任ず
一九	八	二		歩兵第九連隊（欠第二大隊主力）はレイテ島カタモンに転進、第二大隊主力はサマール島中南部に転進該地の守備に任ず
一九	一〇	二〇		米軍レイテ島（カトモン）に上陸部隊は之れを迎撃したる後タガミ西方に撤退陣地を確保し激戦を展開す
一九	一二	五		タガミを進発ブラウエン北飛行場の奇襲に成功するも一二・八米軍の反撃を受け玉砕
一九	一一	一四		米軍南部サマール島に上陸遂次北上を開始す
一九	一一	一四		カルピカ（カタパロガン南方）附近に於て激戦の後一二月初旬遊撃作戦に入り北部



昭和二〇

八  
一五  
九  
二

サマール地区に於て交戦す

停戦

終戦

(注) 終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

第一六師団病馬廠（垣第六五六八部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 九 九 二五	軍令により第一六師団病馬廠編成下令 編成完結（京都伏見）
一一 二四	京都出発
一一 二五	大阪港出帆
一二 二四	ルソン島上陸
一九 七 下旬	第一六師団長の指揮下軍馬の管理、病馬の診療に従事 爾後ルソン島諸作戦に参加
二〇 七 一五	第一六師団主力レイテ島転進に伴い一部レイテ島に派遣 レイテ島派遣部隊はカンギボット山周辺において玉砕す
二〇 八 一五	停戦
二〇 九 二	終戦
	（注）終戦後米軍の收容所に入り爾後各個に復員する

第一六師団防疫給水部（垣第六五九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 九 九 二五	軍令により第一六師団防疫給水部編成下令 編成完結（京都）
一一 二四	大阪港出帆
一二 二四	ルソン島上陸
一九 四 一	第一六師団長の指揮下防疫給水部の作業に従事ルソン島作戦に参加 レイテ島に転進を命ぜらる
一〇 二〇	レイテ島タクロバン上陸 タクロバン出発
二〇 七 一五	タガミーブラウエンーオルモックを経てカンギポット山周辺に転進 第一六師団司令部と行動を共にし同地附近に於て玉碎
八 一五	停 戦
九 二	終 戦

（注）終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

第一六師団衛生隊（垣第六五六三部隊）

年月日	略歴
昭和一六 一〇 一一 二四	第一六師団衛生隊編成完結（京都）
一一 二四	大阪港出帆
一一 二四	ルソン島上陸
	第一次比島作戦参加
一八	一八年以後ルソン島タヤバス、ラグナ州並にマニラ周辺地区警備
一九 一一 二	主力レイテ島に転進
一一 一一	レイガ島オルモック上陸
一一 四	師団主力に追及の命を受けタガミに向うも果さず西海岸に転進
二〇 三 一	カンギボット山周辺に於て玉砕
八 一五	停戦
九 二	終戦

(注) 1. 主力に遅れて一九一一、八セレベス丸にて転進せる伊藤中尉以下一七名海没残員はルソン島に引返し夫々各隊に転属となる

2. 生存者は終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

第一六師団第四野戦病院（垣第六五六七部隊）

年	月	日	略	歴	
昭和	一六	九	一〇	二	軍令により第一六師団第四野戦病院編成下令
			一一	二二	編成完結（宇治）
			一一	二四	大阪港出帆
					ルソン島上陸
					爾後第一次比島作戦参加
	一七	七			ルソン島タヤバス州ルセナに野戦病院開設
	一八	二二			第一半部歩兵第二〇連隊長の指揮下に入りマニラ經由レイテ島に転進タクロバンに野戦病院開設
	一九	三	下旬		残部マニラ經由タクロバンに転進
		一〇	三〇		主力タクロバン出發ハロに転進
		一一	二〇		タガミを経てオルモックに向い転進
	二〇	二	一		オルモックに於て玉砕
	二〇	八	一五		停戦
	二〇	九	二		終戦
<p>（注）終戦後米軍の收容所に入り爾後各個に復員する</p>					

工兵第一六連隊（垣第六五五九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 一〇 一	工兵第一六連隊編成完結（京都）
一一 二五	大阪港出帆
一二 二三	ルソン島ラモン湾上陸
一九 四 二六	第一次比島攻略戦に参加 マニラを出発五・一レイテ島タクロバンに上陸 爾後各隊は左の如く任地に配備せられ陣地構築並に橋梁爆破等に任ず 第三中隊はバロ地区にあり一九・四・一八米軍上陸並に前後の艦砲・空爆に依り甚 大なる損害を受け分散し山中を経てタガミ陣地に集結す 本部器材小隊は上陸と共にタクロバン地区に在りて陣地橋梁爆破に任しありたるも 以後師団司令部と共にタガミに移駐
一九 一二 六	戦死 第一中隊第三中隊はブラウエン飛行場斬込戦斗参加一二・八米軍の反撃を受け全員 第二中隊はレイテ島上陸と共に本部一中隊と共にタクロバンに在りたるも一九・七 「ルソン」島陣地構築のため該島に転進

昭和一九一二年 上旬	第二中隊は軍令によりレイテ島に転進
二〇 七 一五	オルモックに上陸以後カンギボット周辺地区へ転進
八 一五	カンギボット山北方シラド湾東方地区に於て玉砕
九 二	終戦
	(注) 終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

第一六師団兵器勤務隊（垣第六五六二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 一〇 一	第一六師団兵器勤務隊成完結（京都）
一一 二五	大阪港出帆
一二 一七	奄美大島出帆
一二 二三	ルソン島ラモン湾上陸
	第一次比島攻略戦に参加
一九 四 二九	レイテ島に転進タクロバン上陸
	爾後同地附近の整備
一〇 二〇	米軍レイテ島東海岸に上陸之れと交戦の後タガミに転進
一二 六	ブラウエン作戦に参加一二・八米軍の反撃を受け後方に撤退す
	爾後カンギポット山周辺に転進
二〇 四 五	カンギポット山周辺において玉砕
八一五	停戦
九 二	終戦

（注）少数の生存者は米軍の収容所に入り終戦後各個に復員する



輜重兵第一六連隊（垣第六五六一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和 一六 九	軍令により輜重兵第一六連隊編成下令
一六 一〇	編成完結（京都）
一一 一一	大阪港出帆
一二 二四	ルソン島上陸
一九 一〇	爾後第一次比島作戦参加
一一 二二	主力（欠一中隊）レイテ島に転進
一九 一〇	第一中隊主力レイテ島航進途次ボンドック沖にて遭難しルソン島に帰還佐藤隊編成
二〇 六	内山兵站の指揮下に入り二〇・一初旬サンシドロより北部ルソンへ転進輸送並に戦
六	斗参加
一九 一〇	レイテ島オルモックに上陸せる主力はレイテ島内各陣地間の輸送業務に従事
二〇 六	カンギボット周辺地区に集結戦斗部隊となる
六	以降米軍の同地附近に対する攻撃は熾烈を極む

七 一 五	八 一 五	九 二
部隊は総攻撃に参加玉碎	停戦	終戦

(注) 終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

歩兵第二〇連隊（垣第六五五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 九 一六	歩兵第二〇連隊編成完結（京都）
一一 二二	大阪港出帆
一二 二四	ルソン島ラモン湾上陸
一九 五	マニラ・バタン・コレヒドール攻略戦に参加、後ルソン島警備 レイテ島に転進ドラグ・パロに於て陣地構築に従事
一九 一〇 三〇	米軍レイテ島ドラッグに上陸部隊は之れを迎撃激戦の後タガミ方面に撤退す
一九 一二 八	部隊はブラウエン附近において玉砕
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦

（注）生存者は米軍の収容所に入り終戦後各個に復員する

<p style="text-align: center;">特設第五四機関砲隊（駿第一二四五二部隊）</p>	<p style="text-align: center;">年 月 日</p>	<p style="text-align: center;">昭和一九 七 七</p>
	<p style="text-align: center;">略 歴</p>	<p style="text-align: center;">軍令により特設第五四機関砲隊編成下令 編成完結（小倉） 門司港出帆 ルソン島北サンフェルナンド上陸 ルソン島に於て捷一号作戦準備及び捷一号作戦 停戦 終戦</p> <p>（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊せられ爾後各個に復員する</p>

第一〇三師団工兵隊（駿第一〇六〇六部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 五 五 二	独立混成第三二旅団要員として仮編成（熊本）
五 二 八	内地港湾出帆
七 一 〇	比島マニラ港上陸
五 六 五	独混第三二旅団を改編第一〇三師団工兵隊編成完結（マニラ）
八 一 五	比島防備障地構築並に齋正討伐作戦参加
九 二 二	捷号作戦に於ける師団転進間の道路架橋、補修作業並に之れが確保に任ず
	終戦
	部隊長 大佐 松井謙之
	（注）終戦後米軍の收容所に入り爾後各個に復員する

自至自至

一九〇〇 一九〇〇 一九〇〇 一九〇〇

独立混成第五五旅団司令部（菅第一七六〇七部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 七 二	独立混成第五五旅団司令部仮編成（中部軍管下） 門司港出帆
七 一 五	ルソン島マニラ上陸
七 二 三	中部ルソン、ボンガボンに移駐 爾後同地附近の警備
九 四	マニラ出港
九 一 〇	セブ島セブ市に上陸
九 一 二	米機の第一回空襲を受けて損害を生ず
一 〇 二	セブ港出帆
一 〇 四	ホロ島に上陸
二 〇 九	以後ホロ島内肅正討伐及陣地構築に従事 米軍ホロ島に上陸開始

昭和二〇

四 五 八

司令部はダホ山附近にあり交戦

ツマンタンガス附近にて交戦

各隊の残存者を集結しシロマン山に籠り自活自戦の態勢に立至る

(注) 終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する

至自		至自		至自		昭和		年 月 日	略 歴
至	自	至	自	至	自	一	九		
二〇〇	二〇〇	九	九	九	九	七	七	六	独立歩兵第三六三大隊（菅第一七六〇八部隊）
五	四	〇	〇	九	九	七	七	一	
二	八	〇	〇	九	九	七	七	五	
〇	七	〇	〇	九	九	七	七	三	
〇	五	〇	〇	九	九	七	七	一	
四	四	〇	〇	九	九	七	七	五	
二	七	〇	〇	九	九	七	七	三	
〇	五	〇	〇	九	九	七	七	一	
〇	四	〇	〇	九	九	七	七	五	
二	八	〇	〇	九	九	七	七	三	
門司港出帆 比島マニラ港上陸 独立歩兵第三六三大隊編成完結（マニラ） ボンガボンに於て警備並にデンガラ附近の陣地構築 ホロ島進駐のためマニラに集結 マニラ港出帆 ソゴト（セブ北方五〇料）東方海面にて海没 リロアン（セブ北方二〇料）貨物廠に到着 リロアンに於て部隊の整理、警備に従事 リロアン出発 ホロ上陸 同地附近の警備討伐陣地構築等に従事 ツマシタンガス山附近の戦斗に参加									



昭和二〇 五二一

兵団命令に依り部隊を遊撃隊編成に改編す

1. 本部（大隊本部及銃砲隊の一部）

2. 第一遊撃隊（長永井中尉、副長池田中尉、第一第二中隊及機関銃一小隊）

3. 第二遊撃隊（長渡辺中尉、副長池田中尉、第三中隊第四中隊及機関銃一小隊）

4. 第三遊撃隊（長児島中尉、副長中村少尉、作業隊及本部主力、機関銃一小隊）

七二八 シノマン山に向い転進開始

七三一 カンガカン山附近の戦斗

八一 タボ山西南側地区の戦斗

八二 タボ山の戦斗

八八 シノマン山到着

八一五 停戦

九二 終戦

九一六 ホロにおいて米軍に収容さる

（注）生存者は終戦後各個に復員する

独立歩兵第三六四大隊（菅第一七六〇九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 六 一 七	独立歩兵第三六四大隊仮編成（和歌山）
七 三	門司港出帆
七 一 二	バシ―海峡に於て遭難
七 一 五	ルソン島マニラ上陸
七 二 〇	独立歩兵第三六四大隊編成完結（マニラ）
九 八	爾後中部ルソン、ボンガボン附近の警備 マニラ港出帆
九 一 〇	セブ島セブ市上陸同島の警備
九 一 二	セブ市に於て米機の第一回空襲を受く
一 〇 二 五	レイテ島に転進のためセブ港出帆 爾後レイテ諸作戦に参加
二 〇 六 三 〇	レイテ島カンギボット山附近において玉砕
八 一 五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入り爾後各個に復員する